

本学教職員執筆書籍の紹介

看護診断のためのアセスメントポケットガイド

旭川医科大学医学部附属病院看護部編

医学書院、2000年、B6版、136ページ、定価1500円

上野 栄一

この本を手にとると表紙の美しい雪の結晶がまず目にとまる。この雪の結晶は本書が北海道旭川から誕生したことを示唆するものである。そして利用しやすいコンパクトなサイズ。

本書の誕生した経緯は、「序文」に新井多美子看護部長が次のように述べている。「旭川医科大学医学部附属病院看護部では、看護過程に基づいた看護実践を支援するために、患者看護支援システム委員会を発足させ、1993年よりNANDAの看護診断分類を導入した看護システムを稼動してきました。当院では看護診断導入に伴って、理論的背景、面接の質問例、観察内容をコンパクトにまとめた手引きを作成し、ガイドとして改版を重ねてきました。この院内で利用しているガイドが、ポケットガイドとして出版する機会を与えられ、本書が世に出ることとなったのです。」このように、本書は旭川医科大学附属病院の看護部の患者看護支援システムをまとめたものとなっている。現在、記録-看護情報は電子化へ向かって突き進んでおり、本書は時代のニーズにあったものと言えよう。

看護診断に関する著書が数多く出版されている中で本書は数少ない日本で生まれたデータベースである。平成13年度の看護診断学会、その他の学会では、この著書が大変話題になったと参加者の方々から聞いている。どの病院もデータベースの構築に関心があるようである。本書の特徴であるが、患者をアセスメントする際、何を観察するのか、何を患者にたずねるのか、また、どのように看護診断を導くのか、などのポイントがコンパクトにまとめられている。アセスメントデータはNANDAの分類に則っているため、看護診断をする上で大変便利である。

看護を取り巻く環境は複雑であり、人々の健康に貢献する自らの役割を実証することが私達看護師に求められてきている。そのためには、データベースの構築

がまず重要であり、次のステップとしては検証および看護の評価が可能である。本書は看護のアウトカムアセスメントにも利用可能な構成となっている。

本書の構成は下記のようになっており、見やすい見出しがつけられている。

「はじめに」

1. 交換 相互のやりとりに関するパターン
2. 伝達 メッセージの送り出しに関するパターン
3. 関係 絆の構築に関するパターン
4. 価値 相対的価値の帰属に関するパターン
5. 選択 別法の選択に関するパターン
6. 運動 活動に関するパターン
7. 知覚 情報の受け入れに関するパターン
8. 理解 情報の意味に関するパターン
9. 感情 情報に対する主観的な認識に関するパターン

これら9つの人間の反応のパターンには、様々な測定ツールが紹介されており実践ですぐに使えるように構成されている。文体も基本的にはコミュニケーションによる質問形式でデータが収集できるようになっており実践的な構成となっている。

本書は看護師のみならず、学生の臨床実習にも使えるコンパクトなガイドブックとしても用いることができよう。本書を活用し、よりよいケアの提供に貢献できればと願っている。

(旭川医科大学・地域保健看護学講座)